

小林 幹 扶 君 本日仕事の都合で早退させていただきます。申し訳ありません。BOXに協力させていただきます。

今 村 泉 君 星野義男さんのご入会を心から歓迎いたします。

高 橋 彰 雄 君 過日家内のおふくろさんの米寿の祝いを子、孫、曾孫、大勢でやりました。

阿 部 勝 子 君 日本画家達のよもやま話、興味を持って聞かせて戴きます。斉藤様宜しくお願いします。

大 野 新 吉 君 四月の雑誌月間に寄せて最もふさわしい卓話者斉藤会員、宜しくお願いします。

今 井 克 義 君 本日早退いたします。斉藤さんの卓話聞けず、残念です。星野さん入会歓迎します。ゴルフ同好会へどうぞ!!

石 川 友 意 君 星野さんの入会を歓迎して!!

佐 藤 啓 策 君 星野さん入会おめでとうございます。斉藤さん卓話御苦労様です。楽しく聞かせて頂きます。

駒 形 実 君 BOXに協力。

山 崎 勲 君

米山奨学会：

外 山 晴 一 君 息子が大学に入学いたしました。

ロータリー財団：

外 山 晴 一 君 息子が大学に入学いたしました。

* 3月のコメント賞は今村 泉会員です

新入会員入会式：

新入会員 プロフィール

氏 名 星野 義男

生年月日 昭和16年8月10日

会 社 名 富士印刷(株)

役 職 名 代表取締役

会社住所 三条市西本成寺2-7-11

T E L 34-4066 F A X 34-8884

自宅住所 三条市南四日町4-11-51

T E L 34-4145

家族構成 雪枝(妻) 里美(長女)



卓 話： 「日本画家達とよもやま話」 齊藤興一会員

大野委員長さんに頼まれて、本当は「横山大観と尾竹兄弟のエピソード」を話して欲しいと言ったのですが、この話だけでは30分は無理と思い「日本画家達とよもやま話」とさせて頂きました。先程はニコニコBOXに激励文を沢山頂きありがとうございました。頑張って喋ります。日本の絵はどこから来たのかというと、仏教文化のもたらしたものです。1200~1300年前に仏教が日本に渡来したとき、仏様を描いたのが日本画の始まりです。その頃日本には巨勢という一族がい



まして、奈良から平安にかけて巨勢一族が殆ど日本の主流をなしていました。その後色々とは絵は変化します。最も変化したのは安土桃山時代ですが、狩野派、土佐派が生まれました。その派には厳しい掟がありそれ以外を描いた人は破門となります。破門になった代表的な人が長谷川等伯という人です。墨絵で（松林図屏風）が日本の国宝になっております。江戸時代に入りますと円山派があります。この人も狩野派から分かれて一派を成した人です。色々ありまして、1番大きく変化したのが明治だと思います。ヨーロッパからは印象派の絵が日本に入り、日本では様々な人が絵の研究をされ、色々な物を発表されました。その中で、神仏が合体していたのが、神仏分類があり新潟県ではあまりありませんでしたが、福島とか他の県では焼き討ちをしたり、仏を壊したりされ、日本の宝物が大分消失しました。その時、見るに見かねた岡倉天心がアメリカの人に話をして日本の絵を殆ど買い求められました。今はボストン美術館にあります。日本としては一級国宝、日本にある絵よりも素晴らしい絵がボストンにあるというのはそういう訳です。その後大和絵が主流になりますが、その頃岡倉天心は東京に美術学校を創立され、それに対して反撥したのは京都画壇です。竹内栖鳳を軸として色んな人達と絵の競争をしました。その中では殆ど京都画壇が主流だったので東京に残っているのが、版画部類の中から分かれた歌川派というのがありましたが、やはり大和絵には勝てず東京の人達も京都の有名な人の弟子となっています。東京画壇をまとめ上げたのは横山大観であり下村観山であり、川井玉堂、木村武山という人が東京画壇の主力の絵を描いています。そのころ新潟県でも大変優秀な人が居ました。尾竹越堂・竹坡・国観という兄弟でした。越堂が東京に出て勉強したいと新潟から船に乗って直江津を目指したが波が高く、直江津には寄らずに富山県に行きました。そこで、生活のために仕事としたのが越中の葉の袋の挿絵を描きました。それがなかなか有名になり、親兄弟を富山に呼びました。それで富山が第二の故郷と言われています。竹坡が東京に出て川端玉章の門下生となりました。富山にいた頃から3兄弟とも全ての展覧会には入選、又は更に上の賞を取りました。東京でもなかなかいい賞を取りました。日本美術院（現在の院展）に出した絵が開幕するまで1等、2等の判別がつかないという程の傑作を残しています。相手は菱田春草の「落ち葉」竹坡は「かよい」というどちらも屏風絵ですがあまりに出来がいいので宮内庁が全部買い上げました。大変、名声を上げてきましたら遊び心が出まして、東京である女性を巡って横山大観との争いがありました。竹坡の方が振られた形で幕を引いたようです。勝ち戦に乗った大観は展覧会の時に尾竹一族を一切入選させなかった事があります。それを詳しく書いたのが平成15年1月25日の新潟日報に「東京の中のいがた」ということで載っています。破れた尾竹派は大観に勝つには総選挙に打って出るしかないと今で言う衆議院議員に東京から立候補しました。結果は落選でした。その時の落選の仲間の中に鳩山一郎氏も入っています。兄弟の3番目の国観は歴史画家の小堀鞆音の弟子になり歴史絵では日本で屈指の作家となりました。その出来栄えに惚れて、東京目黒の雅叙園は旧館の壁、襖、調度品、額装品は全て尾竹一族が描いております。尾竹竹坡は総選挙に出るために旭日静波の絵を沢山描きました。弟子にも描かせたと思いますが、サインと落款が自分でやったようで